

森林における放射性物質の分布状況

林野庁は、東京電力福島第一原子力発電所の事故により生じた放射性物質による森林の汚染実態の調査や除染に向けた取組を進めています。平成23年末現在での結果を本号と次号で紹介いたします。

◆スギ雄花に含まれる放射性セシウムに含まれる

スギの雄花とその内部の花粉に含まれる放射性セシウム(Cs134+Cs137)の濃度の調査結果(福島県内87箇所)を中間報告として取りまとめました。

放射性セシウムの濃度

1 スギの雄花に含まれる放射性セシウム(Cs134+Cs137)の濃度総括表
単位: Bq/kg

区分	調査箇所数	うち測定を終了した箇所数	スギの雄花に含まれる放射性セシウム(Cs134+Cs137)の濃度	
			最高値	最低値
福島県	132	87	253,000	ND

注: [ND]は100Bq/kg未満である。

2 スギの雄花や花粉等に含まれる放射性セシウム(Cs134+Cs137)の濃度
単位: Bq/kg

番号	スギ林の所在地	放射性セシウム(Cs134+Cs137)の濃度			
		旧葉	新葉	雄花	花粉
1	福島県双葉郡浪江町大字赤宇木	612,000	55,700	56,900	44,700
		(1,076)	(98)	(100)	(79)
2	福島県双葉郡浪江町大字南津島	286,000	26,200	15,680	9,610
		(1,824)	(167)	(100)	(61)
3	福島県双葉郡葛尾村大字落合	286,000	23,100	29,300	35,500
		(976)	(79)	(100)	(121)
4	福島県相馬郡飯館村飯樋	42,400	7,310	10,630	4,440
		(399)	(69)	(100)	(42)

調査分析: 名古屋大学大学院生命農学研究科森林環境資源学研究室

注1: ()内は雄花の濃度を100とした時の各部位の濃度の指数である。

2: スギ林の所在地はいずれも計画的避難区域である。

調査の結果、スギの雄花に含まれる放射性セシウム(Cs134+Cs137)の濃度は、最も高いスギ林で1kg(乾燥重量)あたり約25万ベクレルとなりました。

また、一部のスギの雄花と、その内部の花粉に含まれる放射性セシウム(Cs134+Cs137)の濃度を比較したところ、およそ同程度のレベルでした。

なお、今回測定したスギの雄花に含まれる放射性セシウムの濃度(25万ベクレル)を用いて、人体が受ける放射線量を一定の前提条件を仮置きして試算したところ、成人が吸引した場合に受ける放射線量は、一時間あたり0.000192

μSvとなりました。(参考: 東京都新宿区で12月20日に観測された放射線量は、1時間あたり0.053μSv。)

なお、調査結果の最終取りまとめは、2月上旬に公表する予定です。

※詳細は「こちらをご覧ください。」
<http://www.rinya.maff.go.jp/press/hozen/111227.html>

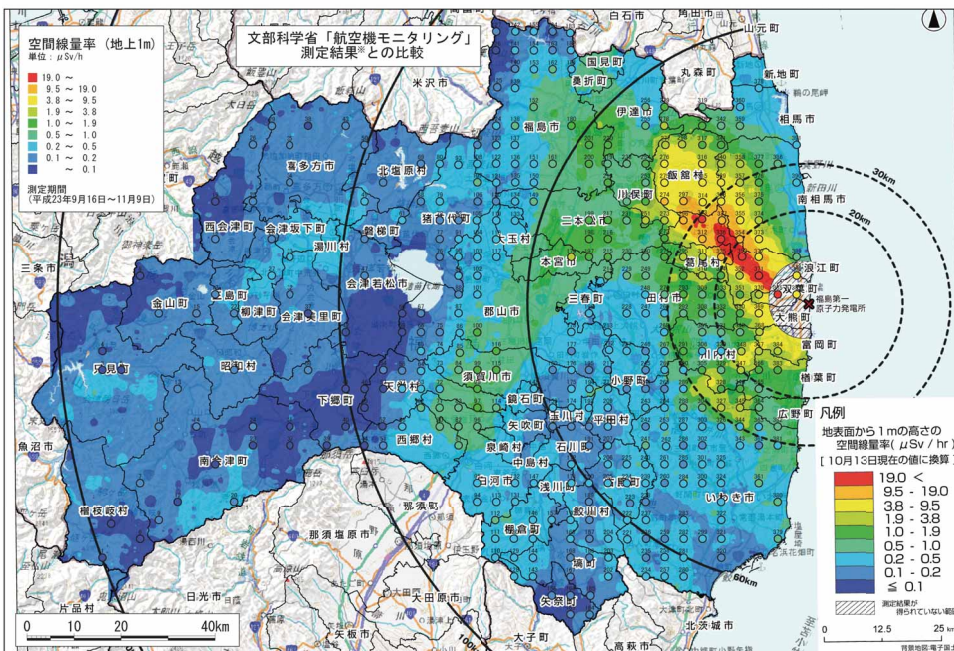
◆福島県の森林における空間線量率

福島県内の森林の放射性物質による汚染状況を把握するため、東京電力福島第一原子力発電所から80km圏内の森林では、概ね4kmメッシュ相当で、また、80km圏外では概ね10kmメッシュ相当でそれぞれ調査地点を設定し、合計391箇所の空間線量率(地上1m)を測定した結果を分布図にまとめました。

この結果は文部科学省が公表している航空機モニタリングによる空間線量率の分布と概ね一致していることが

わかりました。なお、この調査では、同時に土壌の放射性セシウム濃度も調査しており、結果がまたり次第公表する予定です。

※詳細は「こちらをご覧ください。」
http://www.rinya.maff.go.jp/press/hozen/111227_3.html



※ 文部科学省「文部科学省による、岩手県、静岡県、長野県、山梨県、岐阜県、及び富山県の航空機モニタリングの測定結果」(平成23年11月11日公表)